

教護会だより

第97号

発行日 令和元年10月9日(水)
発行者 山形県立米沢工業高等学校
全日制教護会
TEL (0238) 28-7050(代表)
URL <http://www.yonezawa-th.ed.jp>
編集 全日制教護会広報委員会
印刷 株式会社 カワサキ印刷

★新しい時代★ 「令和」に躍動する米工生



山形県立米沢工業高等学校では、「PTA(保護者と教職員の会)」のことを「教護会」と呼んでいます。
保護者と教職員の連携のもとに、本校教育の推進と生徒の健全な育成を目指して活動を行っています。

★APRIL★
4月



入学式



初めてのホームルーム



対面式



部活動紹介



創立記念式講演会



学級懇談会

★MESSAGE★

1 学年主任&担任から



1 学年主任
電気情報類
さとう ただひろ
佐藤 忠博 先生

自動で様々なことが片付けられる時代ですが、自ら考え行動できる人間が今後必要とされる時代です。自分らしさを出して成長して下さい。



1 組担任
機械生産類
さいとう ゆいぢろう
齋藤 暢一郎 先生

入学してから半年で何を学び、何を得ましたか？高校生活の3年間はあっという間。目標達成に向けての1日1日を大切にしてください。



2 組担任
理科
よしだ たけし
吉田 武史 先生

人生での成功を決めるのは「才能」や「IQ」ではなく、「粘り強さ」です。難しいことにあきらめずに取り組めば、成功は勝手についてきます。



3 組担任
電気情報類
たけだ はるか
竹田 晴誉 先生

「得意なことが自分のためになるとは限らない。」「苦手なことが自分のためにならないとは限らない。」「何事も挑戦し初志貫徹でがんばろう！



4 組担任
建設環境類
あいだ ひろあき
會田 浩昭 先生

一致団結してクラス力を底上げしたいと考えます。1人1人の意識が大切です。入学して大きな輪ができつつあります。互いに高めあえるよう頑張ろう。



5 組担任
保健体育科
まさかね こうた
政金 康太 先生

高校生のうちに何かに熱中しよう。熱中して失敗したり、成功したりする経験がきっとこれからの人生につながり、生きてきます。

★MAY★
5月



地区総体壮行式



地区総体 ソフトテニス男子



地区総体 バレーボール



地区総体 サッカー



地区総体 バスケットボール



地区総体 表彰式



芸術鑑賞教室

★JULY★
7月



野球 甲子園予選



甲子園予選 全校応援



クラスマッチ開会式



クラスマッチ バレー



クラスマッチ バスケット



赤ちゃんと遊ぼう出前講座

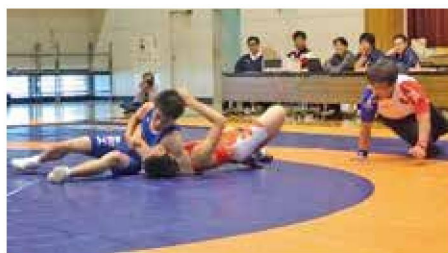


M類出前講座 上郷



M類出前講座 万世

★JUNE★
6月



県総体 レスリング



県総体 陸上



県総体 登山



県総体 バドミントン



ものコン 電子回路



ものコン 測量



ものコン 建築大工



インターンシップ



石巻ボランティア

★AUGUST★
8月



Makerfaire tokyo2019



小型建設車両講習



技能講習



出前授業 (米一中)



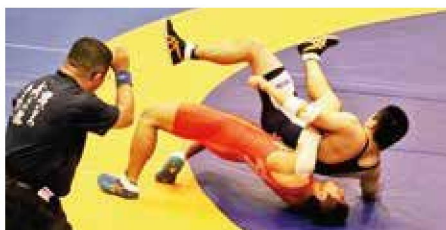
出前授業 (広幡小)



出前授業 (上郷小)



イノベーションキャンプ最優秀



レスリングインターハイ第5位



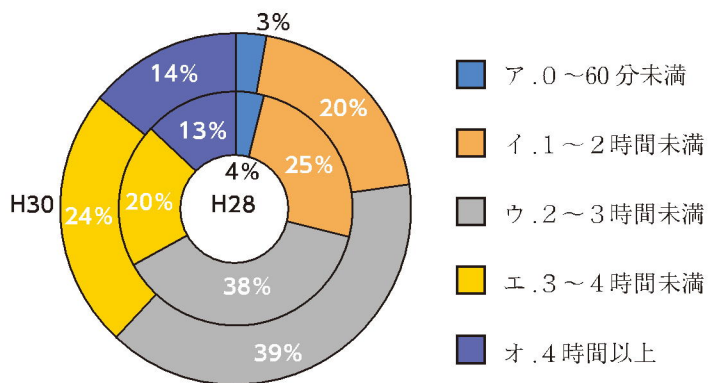


本校生徒の スマートフォン使用実態

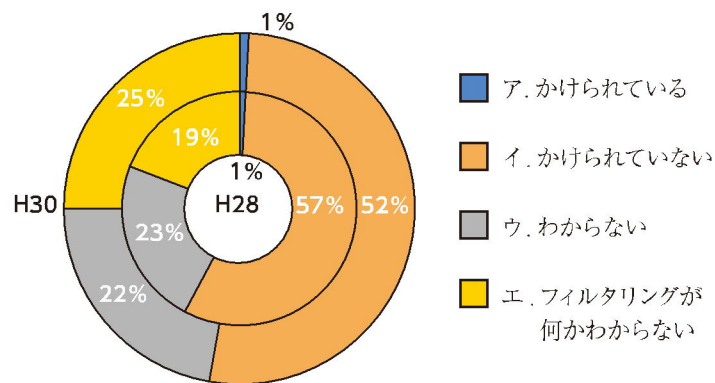
平成 30 年 9 月 10 日～ 14 日実施の
保健部のアンケート調査結果より抜粋



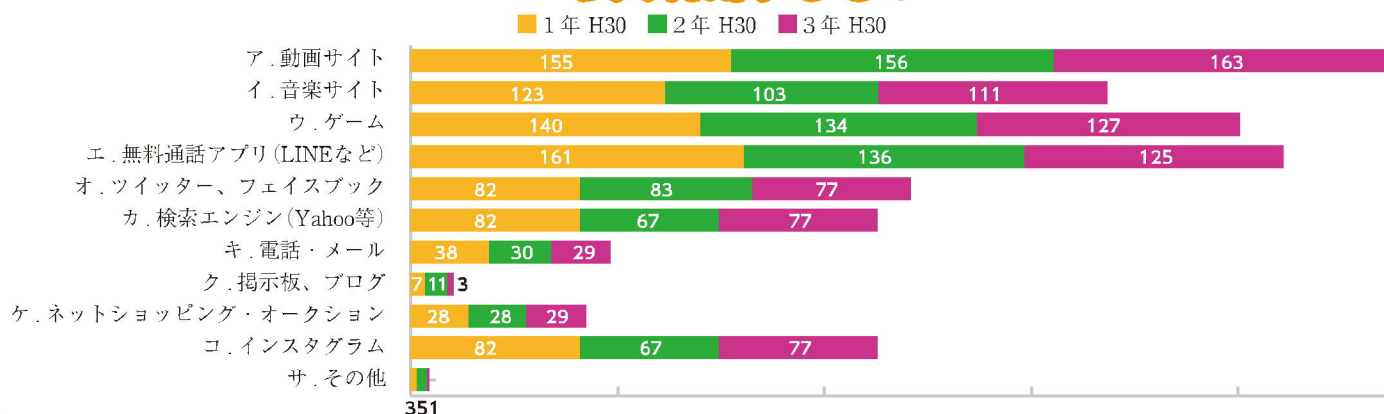
平日のスマホ使用時間



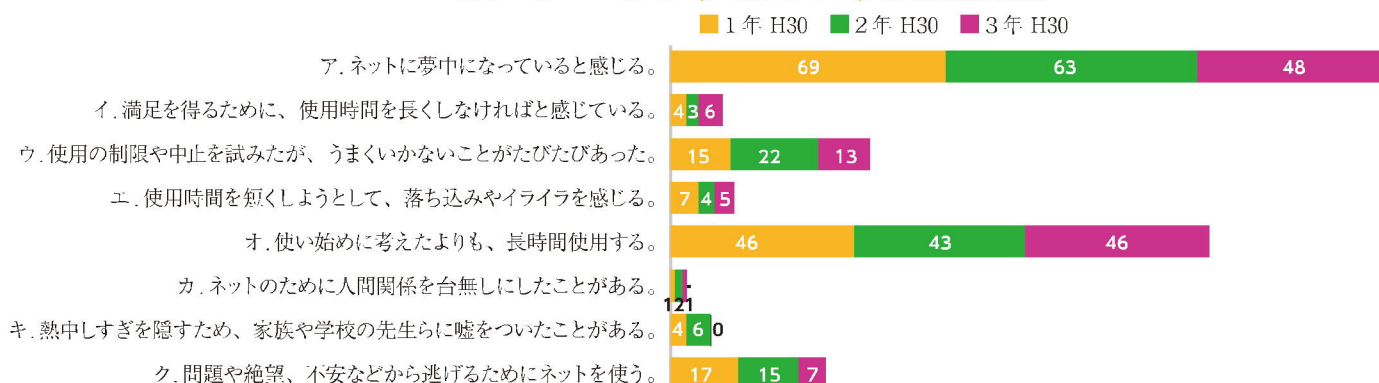
何らかのフィルタリングがかけられているか



良く利用するもの



インターネット(スマホ)依存度



編集後記

年号が令和となっても地震や台風などの自然災害が多数発生しております。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。今年度から教護会の組織が再編され、従来各地区から選出されていた広報委員が、各クラスからの選出となりました。私は地区と学年の両方から選出され、3年間広報の仕事にたずさわってまいりました。どちらから選出されても、委員の皆さんと一緒に教護会だよりを楽しく編集することができました。

第97号は令和になっての第一号であり、年号が変わっても「躍動する米工生」をテーマに掲げました。また保護者の方に関心のあるスマートフォンについて特集しました。原稿執筆や写真の提供、また編集に携わられた皆様方に感謝申し上げます。

次号も楽しい教護会だより、子ども達の活躍・活動が一目で分かる教護会だよりをお届けしたいと思います。



米工祭のお知らせ

10月18日(金)
～19日(土)

fun! tasy
～夢のような時間を～

一般公開は19日のみ





激変する社会を生き抜くためには

教護会会長
青木 睦

教護会会員の皆様には、日頃より本会に対し格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本会の役割は、学校教育目標である「健康で心豊かな、創造力とたくましい実践力のある工業技術者」を育成するため、学校と家庭そして地域が連携し、子供達を育てることです。本会はPTAと称しないで「教護会」としています。昭和22年終戦直後の発足時「子供達の教育だけは護り育てていかなければならない」という親達の願いと決意があると記録にあります。私たちは、先人が組織に残したこの「教護会」の意味を考え、今の子供達にできることを実践していかなければと思います。

さて、8月21日～23日と全国高等学校PTA連合大会京都大会に、伊藤副会長と参加させて頂きました。分科会は、すぐその未来の仕事～とにも考えるSociety 5.0 において求められる人材像、学びの在り方～に興味を持ち参加しました。世の中は「超スマート社会」といわれるSociety 5.0が訪れようとしており、人工知能（AI）、ビックデータ等あらゆる産業で取り入れられ、仕事の在り方や生活環境が激変するといわれています。そのような激変する社会に子供たちは、これから働き生きていかなければなりません。そのような社会で生きていくためには、認知能力（IQ・偏差値）よりも、非認知能力（コミュニケーション力等）を小さい子供の頃から高めることが重要であります。また、これから求められる人材像では、人間にしかできない、想像力と創造力。AIなどを使えるという感覚。リーダーシップが求められます。米工の教育目標である、創造力とたくましい実践力・・・は今後必要な要素であると感じた有意義な3日間でありました。

結びに、今後も歴史ある教護会活動に対して、これまで同様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



温故知新「新たな時代にもとめられる米工であるために」

校長
佐藤 正

本校は、明治30年4月26日、全国で6番目に開校した工業高校です。その頃の米沢は、鷹山公以来の伝統産業である米沢織が没落の一途をたどる暗黒の時代でした。粗悪な製品が出回り、信用が落ち、多くの機織り屋が倒産する状況でした。このような状況の中、地元絹織物組合の有志は、以前のような優れた米沢織を復活させるためには、良質な生糸を生産できる技術、そして、それを絹織物にする加工する技術と加工機械の開発、さらには、染色デザイン技術などを習得できる工業技術教育の必要性を実感し、米沢市に工業学校を設置しようとの機運が高まったとのことです。しかし、市においても県に置いても、県内初の工業学校設置は財政的な困窮もあり、「時期尚早である。」と簡単には実現することが叶いませんでした。幾多の陳情を繰り返しながら、最後は米沢市が設立創業費一切を寄付することや、絹織物組合が市の負担する経費を受け持つことを決議し、明治30年3月、ようやく「市立工業学校」の認可をえることができました。そして、同年4月26日、当時の市会議事堂（現在の松が岬神社が建立されている場所）を仮校舎として開校式が挙行されました。翌年、県に移管され名称を「山形県工業学校」と改称されました。ご年配の方が本校を「県工」と呼ぶ事がありますが、その呼び名は、ここに由来します。大正9年に鶴岡と山形に工業学校が設置されるまでは、唯一の「県工」として全国にその名が知れ渡るとともに、地元からも親しまれ、伝国の社の一角に「県工発祥の地」と刻まれた石碑が立っています。

このように、今ある県立米沢工業高校は、地域の産業を担う人材育成機関として、多くに人々の熱意と期待を託され生まれました。このことは、本校の校歌にも見て取ることができます。歌詞の中に、「工業報国」という言葉があります。これは、「我々は、日々精進を重ねて技術を習得し、世のため国のために貢献します。」という決意を意味する言葉で、本校が果たすべき役割と使命を表しています。また、その「工業報国」を担う人材育成の精神を引き継ぐ教員に大正9年に制定された「朝礼訓」があります。「一お互いに敬愛の実をあげよう。」「一自己の本文は自ら進んで尽くそう」です。当時は、経済不況や大火災があいつぎ、社会が混乱し、市民の心も荒れていたため、朝礼という朝の生徒集会を開き、自らの生きる指標とするために、つくられたものです。相手を敬い「共に助け合って生きることを行おう。」「自分がいまままで尽くすことに自ら積極的に取り組もう」という教えます。時代は「平成」から「令和」へと移りました。本校の朝礼訓はいつの時代になっても、人が生きていく上で決して失ってはならない不変の心構えであると確信します。グローバル化やIoT、AIによる情報化、少子高齢化などこれまでに無い大きな社会変化によって、先行きを見通せない時代となっているからこそ、「健康で心豊かな創造力とたくましい実践力のある工業技術者」の育成を学校目標とする本校と卒業する皆さんへの期待はますます大きなものとなります。新たな時代の未来を築くのは皆さんなのです。本校創設にかかわった人々の思いと志を引き継ぎ、地域の未来の発展に貢献する人になってもいいと思います。

本校が果たすべき役割を確認し、新たな県立米沢工業高等学校の未来をつくり、伝統を築いていくことを願います。（創立記念式典式辞より抜粋）

平成31年度（令和元年度） 教護会役員

常任顧問	佐藤 正（校長）
会長	青木 睦（3-5 勇悟）
副会長	岩倉 利憲（2-5 杏子）
副会長	伊藤 和弥（1-4 颯琉）
副会長	土屋 仁（教頭）

〔学年関係〕

3 学 年	青木 睦（3-5 勇悟）	3学年会長・教護会会長
	高橋 良子（3-1 源紀）	3学年副会長
	赤荻 茂（3-4 清志郎）	3学年副会長
2 学 年	岩倉 利憲（2-5 杏子）	2学年会長・教護会副会長
	鈴木 広信（2-1 賢信）	2学年副会長
	二宮 緑（2-5 志歩）	2学年副会長
1 学 年	伊藤 和弥（1-4 颯琉）	1学年会長・教護会副会長
	赤木 千明（1-3 駿介）	1学年副会長
	沼澤 克幸（1-2 佑佳）	1学年副会長

〔専門委員長〕

生活委員長	山田 秀幸（3-5 太陽）
広報委員長	松木 浩幸（3-1 大輝）

〔職 員〕

土屋 仁（教頭）	佐藤 政則（生徒部長）
会田 啓司（事務部長）	山口 憲司（進路部長）
清野 和敏（総務部長）	佐藤 忠博（1学年主任）
熊谷 隆史（教務部長）	阿部 英敏（2学年主任）
	佐藤 由好（3学年主任）

東北高P連大会報告

総務部長 清野 和敏

令和元年度の東北高P連大会は、「一人ひとりの個性が奏であう未来へ」をテーマに、7月4日と5日、1800人余りの参加者を迎え山形市で開催されました。本校は青木会長と定時制林邊会長など総勢17名で参加しました。初日にホテルメトロポリタンで情報交換会、2日目に山形市総合スポーツセンターで研究協議と高校生発表、講演会が行われました。研究協議では学校と保護者・地域をつなぐ各校の涙ぐましい努力と取り組みが発表され、如何にして保護者を学校に引き寄せるかという、いずれも同じ悩みを抱えている印象でした。私たちは、何事もめげずに、できることから取り組んでいくことが大事です。

高校生発表では山形北3年櫻井さんの最上川独唱、山形商業産業調査部の研究発表パフォーマンス、村山産業郷土芸能部のむらやま徳内ばやし演奏などのステージ発表が行われ、聴衆から拍手喝采をいただきました。

講演では百マス計算考案者、陰山英男氏による具体的指導例などの講演でした。保護者にとっては、我が子の成績を伸ばすヒントが得られた貴重な講演でした。

来年の東北大会は秋田で開催されます。

